

だいにちによらいぞう
大日如来像

◇ 指定日 平成10年7月24日

◇ 所在地 腹帯

◇ 所有者 個人

ちゅうぜんいん しゅげんじゃ
忠善院という修験者を祖先にもつ所有者の蔵には、修験道に関わる仏像などが安置されています。大日如来は、宇宙の根本とされた仏で、^{みつぎょう}密教や修験道で崇拝される仏尊です。

2体の大日如来像は^{ほうかん}宝冠をかぶり、手は印を結んで^{れんげざ}蓮華座に座っています。

右が^{こんごうかい}金剛界大日如来で、^{ちけんいん}智拳印を結び、左の^{たいぞうかい}胎蔵界大日如来は胸に^{ようらく}瓔珞を付け^{ほっかいじょういん}法界定印を結んでいます。

江戸時代前期の制作とみられ、宮古村久館(愛宕)^{きゅうだて あたご}の石勝寺^{せきしょうじ}から伝わったものといわれています。



たいぞうかいだいにちによらいぞう
胎蔵界大日如来像



こんごうかいだいにちによらいぞう
金剛界大日如来像

像高 42.0cm 幅 29.6cm 奥行 26.3cm